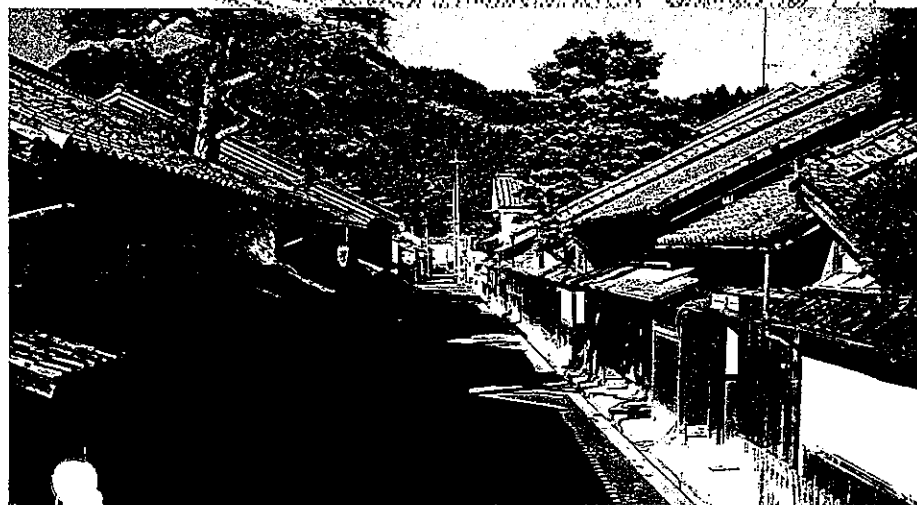


新しい淡海文化の創造に向けて

# 近江歴史回廊構想

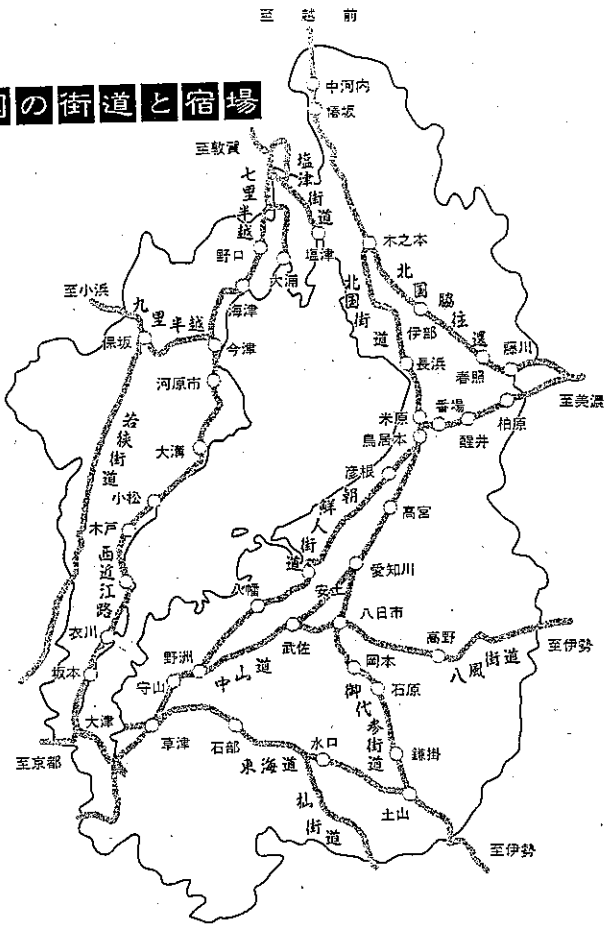


平成6年1月

滋賀県

# 東西歴史文化の要衝…近江

## 湖国の街道と宿場



皆さんは、滋賀県が保有する国宝や国指定重要文化財の数が、全国第4位だということをご存じでしょうか。また、県民一人あたりの寺院数が全国第1位だということをご存じでしょうか。

中央に、我が国最大の湖・琵琶湖が南北に横たわり、周囲を比叡、比良山系や伊吹山、鈴鹿山脈等の1,000m級の山々が取り囲む近江盆地は、縄文・弥生時代の遺跡や数多くの古墳が示すように、早くから文化が開け、古来、東海道や中山道に代表されるように、幾筋もの主要街道が通り、東西日本や北日本を結ぶ交通の要衝として、幾度も歴史の表舞台に登場してきました。また、最澄の開いた比叡山延暦寺に代表されるように、信仰の厚い地でもあり、数多くの偉人を輩出してきました。

このように、滋賀県は琵琶湖や琵琶湖を取り巻く奥深い山々に代表される雄大な自然と、それぞれの時代を代表するような、豊富な歴史文化資源に恵まれた地です。

しかし、これらの貴重な歴史文化資源も、広く知られることもなく、埋もれたままになっているものが、決して少なくありません。これらの資源をなんとか活用し、未来のまちづくりに活かさないだろうかという願いから、「近江歴史回廊構想」が生まれました。

## 歴史は 未来をひらく原動力

「近江は宇宙の名地、地広く人衆く、国富み家給す。東は不破に交わり、北は鶴鹿に接す。南は山背に通じて、此京邑に至る。水海清くして広し。山木繁って長し。其壤墮黒く、其田上々、水旱の災いあると雖も曾て獲ざるの恤なし。故に昔、聖王賢臣都を此地に遷し、郷の童、童、野の老、共に無為を称して手を携えて巡り行く。大路に遊び歌う。時の人みな行く、太平の代、この公私往来の道、東西二陸の喉なり。」(『藤氏家伝』)

奈良時代に、藤原不比等(淡海公)の長子で近江国司の長官であった藤原武智麻呂の伝記にこのような記述があり、当時近江は交通の要衝として、あるいは豊かで平和な国として人々に認識されていました。

このように多くの人々を魅了してやまない近江の風土と歴史には、私自身も尽きない魅力と誇りを感じておりますが、国内有数の歴史文化資源が、県下各地に散在していることもあり、必ずしもその価値に見合った十分な光を放っているとは言えません。そこで、これらの資源を掘り起こし、テーマに沿ったルートでつなぎ、県内外の方々にその素晴らしさを知っていただくとともに、地域の活力や個性を引き出し、地域の皆さんが誇りを持ってまちづくりやひとづくりに活かしていただけるように、「近江歴史回廊構想」を策定しました。

私は、歴史というものは、単に過去を振り返るだけのものではなく、そこに現れるさまざまな示唆を、現在から未来への展望を切り開いていく原動力として捉えるべきだと思っています。県では、かねてより県政の「志」として「新しい淡海文化の創造」を掲げ、近江の歴史や風土を未来に活かしていく取り組みを進めていますが、本構想はその先導的な施策でもあります。来るべき21世紀の県土づくりを展望し、県民の皆さん一人ひとりと手を携えながら、本構想の実現に向けて着実に前進していきたいと考えています。

滋賀県知事

# 1. 構想の目的と基本方針

## [目的]

近江歴史回廊構想は、「湖国21ビジョン」「新しい淡海文化の創造」の具体化を基本理念とし、その推進には、次に掲げる3つの目的があります。

- ・近江の豊富な歴史文化資源に光をあてる
- ・人びとが親しめるものにするとともに、地域の誇りとなるようにする
- ・現代ひいては未来のまちづくり、ひとづくりに活用する

## [基本方針]

近江歴史回廊構想は、次に掲げる3つの基本方針に沿って推進されます。

- 回廊（ルート）化
- ①近江の歴史文化資源を滋賀県民の誇りとし、滋賀県固有の「顔」に仕上げる
  - ②近江の歴史文化資源を、県内外の人びとがわかりやすく追体験できるようにする
  - ③近江の歴史文化資源を、まちづくりに活かす

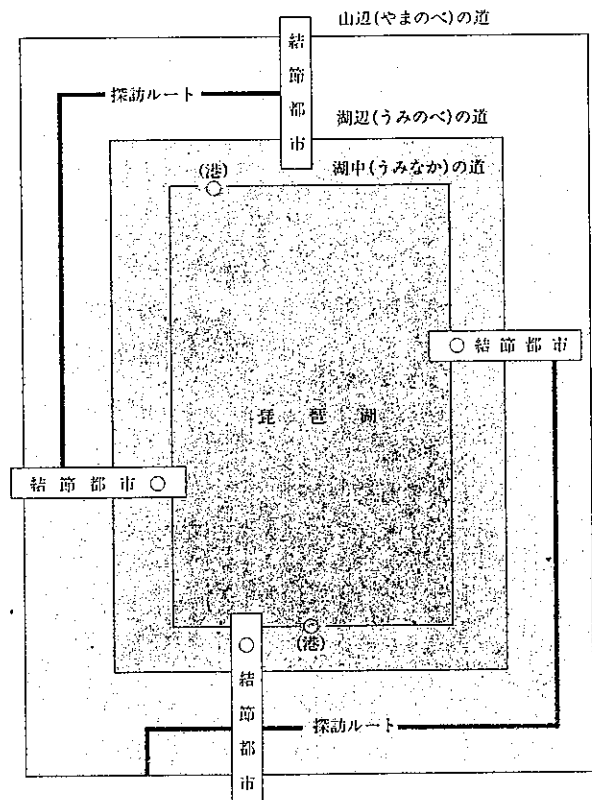
# 2. 回廊（ルート）の提案

## [近江の歴史的特質]

- 「みずうみ」の国
  - 「みち」の国
  - 「ほとけ」の国
- 歴史の重層性

各時代を通じて重要な表舞台を形成してきた近江の歴史には、「みずうみ」「みち」「ほとけ」の3つの特徴的な側面があり、これらが多様に入り組み、深い重層性を有していると考えました。そして、近江の歴史的特質を勘案しながら、いくつかのテーマに沿ったゾーンニングを行い、ストーリー性、時系列性、広域性等をプラスして、重層的に各地に広がる歴史文化資源を体系づけ、連結し、たどりやすく理解しやすいいくつかの「回廊（ルート）」を提案しました。

## ◆ 回廊イメージ



# 探訪ルート

琵琶湖環状ルートから入り、近江の重層的な歴史をテーマごとや、時代ごとあるいは地域ごとに探求するルートで、県内外から近江歴史回廊へのアクセス拠点となる「結節都市」を起点・中継点として、地域の歴史文化資源を広域的に結びます。

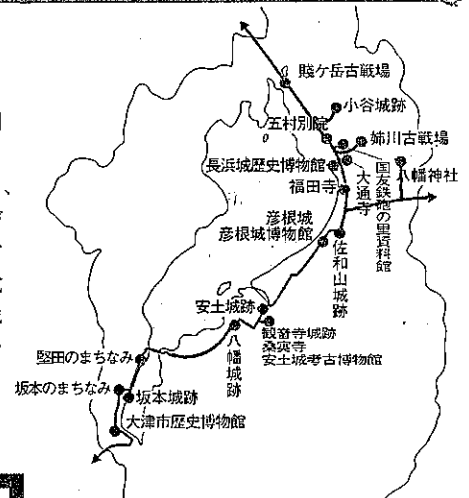
構想では、テーマ性やストーリー性を基に、「たどりやすさ」「理解のしやすさ」「広域的連携」「情報発信力」といった要素を勘案して、次に示す10のルートを提案しました。

構想の推進にあたっては、さらにいろんなルートや探訪ポイントが掘り起こされ提案されることが期待されます。

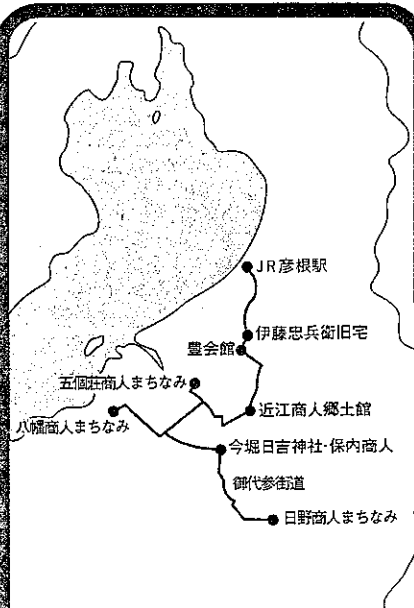
## 近江戦国の道

近江の国が日本史の中で最も劇的な舞台となったのは戦国時代である。織田信長や豊臣秀吉、徳川家康など、天下取りを志す武将たちがこの国の中を駆けめぐり、その中から後の時代の都市基盤となる城下町が出現した。「近江を制する者は天下を制す」と言われ、京の都に近く、また交通の要衝であった近江の国を支配することが天下統一の第一歩であった。安土の地を選んだ信長の知謀、天下平定にかけた秀吉の執念、賤ヶ岳の敗戦がも

たらしたお市の方の涙……。『近江戦国の道』には、武将たちの描いた巨大なロマンや戦火の陰に生きた女性の悲劇など、さまざまなストーリーを垣間見ることができる。大津市歴史博物館から賤ヶ岳古戦場をつなぐ「近江戦国の道」は、現代にも「戦国」の歴史文化が息づく城、城跡、古戦場、寺社、まちなみ、博物館など21の主要な探訪地で構成される。



大津市歴史博物館→坂本城跡・坂本のまちなみ→堅田のまちなみ→八幡城跡→安土城跡→安土城考古博物館・桑実寺・観音寺城跡→彦根城・彦根城博物館→佐和山城跡→福田寺→長浜城歴史博物館→大通寺→国友鉄砲の里資料館→五村別院→八幡神社→姉川古戦場→小谷城跡→賤ヶ岳古戦場  
【全長約130km】



伊藤忠兵衛旧宅→豊会館→近江商人郷土館→五個荘商人まちなみ→八幡商人まちなみ→今堀日吉神社・保内商人御代参街道→日野商人まちなみ 【全長約60km】

## 近江商人の道

江戸時代、質素儉約・勤勉・堅実を信条とした近江商人は、行商をふりだしに商圏を全国に広げていった。今でも豊郷町に旧宅の残る大商人伊藤忠兵衛は「利は動くにおいて真」を座右の銘とし、本来の商いから得た利益だけが真の利益で、投機や相場を稼ぐことは邪道として固く禁じた。こうした信条や商売のやり方は、明治維新以降の近代的経営の基礎を固めるものであった。近江商人は、妻

や子供を本家に残し他国で出店し商売をしたので、近江の地には店舗らしい構えはあまり見られず、豪商たちの立派な住宅と大きな蔵が並ぶまちなみが残るのみである。今では家族も出店地へ移住し留守宅が多いが、豊郷町、湖東町、五個荘町、近江八幡市、日野町などには、今も残る独特のまちなみに、また郷土資料館等に先人の足跡をたどることができる。「近江商人の道」は、8の主要な探訪地で構成される。

## 近江万葉の道

小篠原銅鐸群、大中の湖南遺跡、大津京跡などからは考古学上重要な成果が発見され、近江は古代を考える宝庫と言われている。また、5世紀以降、渡来人たちが定着して、先進的な文化が花ひらくことは近江の古代の大きな歴史特性であり、7・8世紀、大津京、紫香楽宮という都が置かれ、近江の国が政治の表舞台に立ったことにも渡来人の定住が大きく関わっていたとされる。奈良時代に編さんされた「万葉集」には、近江の地がい

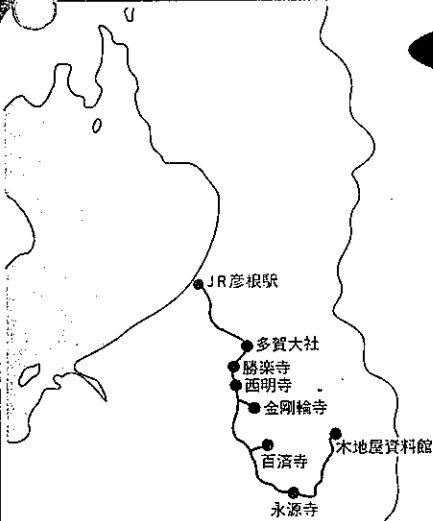
くつか詠まれ登場する。大津京跡を訪ねた柿本人麻呂の歌や、菰生野の地で詠まれた額田王と大海人皇子の相聞歌などが名高い。これらの歌からは、古代人の心像や琵琶湖とその周辺の原風景が思い浮かぶ。「近江万葉の道」は、古代から飛鳥、天平文化の流れに沿って古墳、宮跡、歴代天皇や渡来人にゆかりの旧跡、歌人ゆかりの地など、13の主要な探訪地で構成される。



兵主神社→銅鐸博物館→雪野山古墳→船岡山→布施溜→石塔寺→鬼室神社→紫香楽宮跡→金勝寺→狛坂磨崖仏→石山寺→園城寺→大津京跡 【全長約140km】

## ことうやまのべ 湖東山辺の道

鈴鹿の峰々が湖東の平野と向き合う山辺。延命長寿・縁結びの神として古くから全国的な信仰を集める「お多賀さん」の大鳥居、婆娑羅大名佐々木京極尊譽ゆかりの勝楽寺の大口如来、山の斜面を利用した西明寺蓬萊庭園、「血染めの紅葉」の金剛輪寺、石垣がどっしりと城郭の趣を漂わす百済寺、愛知川の清流を見おろす永源寺の十六羅漢の石仏……。そこには、一千余年の歴史の重みを沈着させた大社、大寺がきら星のごとくいらかを並べている。永源寺からさらに愛知川をさかのぼれば、山深く谷険しい小椋谷。そこは本地屋のふるさとである。本地屋は、古代から日本全国の深山を仕事場として木を伐り、ろくろを使って丸膳、椀、盆など木地物をつくった流浪の山の民である。「湖東山辺の道」は、湖東三山を含む7の主要な探訪地を結ぶ、深い緑に塗り込められた文化をたどるルートである。



多賀大社→勝楽寺→西明寺→金剛輪寺→百済寺→永源寺→本地屋資料館

【全長約30km】

【羅漢】仏教の修業の最高段階に達した人。阿羅漢の略。

## 湖西湖辺の道

びわ湖の西、山が湖に迫る際は、いにしえからそれ自体が一筋の道であった。旧北国街道は、近江八景「堅田の落雁」浮御堂、「近江の殿島」白髭神社、桜の名所海津の大崎寺、琵琶湖八景「暁霧、海津の岩巖」などの名勝が連なるとともに、大陸文化移入の先駆をなした遣隋使小野妹子の墓、古墳時代後期の前方後円墳・鴨稻荷山古墳、鎌倉期に創立されたと伝えられる大荒比古神社などの旧跡に見るように、さまざまな時代の歴史

がさざなみのように寄せては返し、複雑に積み重なりながら湖西独特の景観を形成した。この湖沿いの地では、万葉集や与謝野鉄幹・晶子の名歌が光を放ち、日本陽明学の祖中江藤樹や朱子学者浅見綱齋という博識者をとどめたりもした。湖にひたすら向きあいながら、さざなみの歴史をひもとく「湖西湖辺の道」は、11の主要な探訪地で構成される。

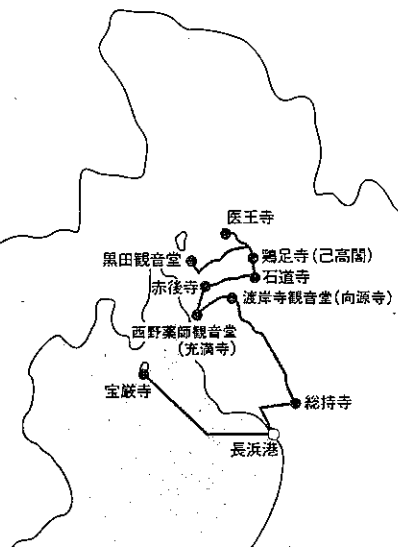


唐崎→浮御堂→小野妹子の墓→白髭神社→鴨稻荷山古墳→藤樹書院→大荒比古神社→今津浜の松並木→海津のまちなみ→大崎寺→菅涌 【全長約100km】

## 湖北観音の道

近江の中でも、特に信仰厚い湖北の地。渡岸寺観音堂(向源寺)の十一面観音立像に見られるごとく、湖辺の農村にも仏教信仰は広がっていった。人びとは参籠と並んで、観音信仰に現世利益の希求と来世での救いを求めた。この信仰によって各地に観音の霊場が生まれたのは平安末期のこと。そして観音巡礼は室町期に入ると、しだいに大衆化していく。かなら

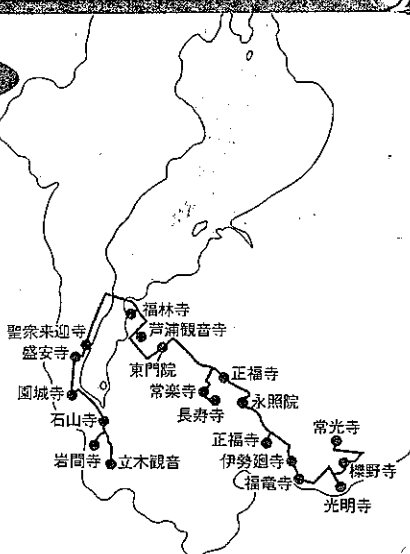
ずと言ってよいほど観音菩薩が安置してある寺々を包む里には、戦国の戦禍から身を呈して仏を守ったという美談に象徴される先人たちの、草の根の歴史が息づいている。情緒深い奥びわ湖の風物の間に、自らの悟りを求める道をたどる「湖北観音の道」は、西国巡礼三十番札所・竹生島宝蔵寺など、9の主要な探訪地で構成されるルートである。



(船)→宝蔵寺→(船)→総持寺→渡岸寺観音堂(向源寺)→西野薬師観音堂(充滿寺)→赤後寺→石道寺→鶏足寺(己高閣)→医王寺→黒田観音堂 【全長約70km】  
【参籠】神社・仏寺などに昼夜こもって祈願すること。

## 湖南観音の道

古代からの堂々たる大寺が存在を競う大津の山辺。奈良時代、聖武天皇の勅願により僧良弁によって開かれた石山寺、三井寺の通称で知られる天台宗門宗総本山園城寺…。そこから、湖をわたり、湖南の平野から甲賀の里へ。最澄作と伝えられる木造十一面観音立像を本尊とする守山市・福林寺、比叡山の東門として建立された東門院(守山観音)、石部町の天台宗の古寺常楽寺、長寿寺はそれぞれ西寺・東寺の呼び名で親しまれている。さらに、甲西町・正福寺、永照院……、甲賀町・臨濟宗常光寺は、やはり木造十一面観音立像で知られる寺院である。一瞬つなかりにとまどうこの道に、観音信仰の縁がある。「湖南観音の道」は、人びとを誘う慈悲の道として、19の主要な探訪地を結ぶルートである。

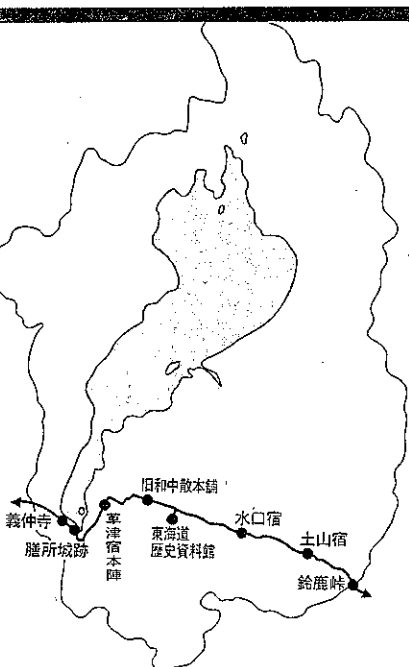


立木観音→岩間寺→石山寺→園城寺→盛安寺→聖衆来迎寺→福林寺→芦浦観音寺→東門院→常楽寺→長寿寺→正福寺→永照院→正福寺→伊勢廻寺→福竜寺→光明寺→櫻野寺→常光寺 【全長約130km】  
【勅願】天皇の祈願。

## 近江東海道

近江を代表する街道は、まず第一に東海道である。53次の49次土山から50次水口、51次石部、52次草津、53次大津と、東海道は近江のこの5宿を走る。鈴鹿馬子唄に、また安藤広重の絵に名残をとどめるこの道は、松尾芭蕉が訪れ、伊勢に向かう齋王がわたったロマンの道でもある。「木曾殿と背中合わせの寒さかな」と詠まれた、芭蕉が眠る義仲寺から、「瀬田の唐橋からかねぎぼし、水に浮かぶ」

膳所城、東海道と中山道の分岐点にあたり、まさに交通の要衝のあった草津宿へさらには旧和中散本舗、石部町、東海道歴史資料館、水口宿、土山宿、鈴鹿峠へと続く。「近江東海道」は、旧東海道の名所旧跡をたどって、江戸への道をさかのぼる道である。地元では宿場の面影をよみがえらせるまちづくりが始まり、8の主要探訪地は現代に再び光を放とうとしている。



義仲寺→膳所城跡→草津宿本陣→旧和中散本舗→東海道歴史資料館→水口宿→土山宿→鈴鹿峠 【全長約60km】

## 近江中山道

中山道は美濃から近江に入り、67次のうち、柏原、醒井、番場、鳥居本、高宮、愛知川、武佐、守山の8宿が営まれた。中山道の宿駅のほとんどが主要道や間道の接点に位置していたことは、近江の宿駅の大きな特色である。六波羅探題滅亡の悲話、婆娑羅大名佐々木京極導誉の権謀術数、織田信長の勇躍、石田三成の運命と、常に栄枯盛衰の歴史を映した道は、近江商人が行き交い、丸薬やもぐさ

が商われる地場の道でもあった。「近江中山道」は、国の史跡草津宿本陣から、守山宿、鏡宿、武佐宿、「右京みち、左いせひの八日市道」の石造道標の建つ愛知川宿、多賀大社参拝口としても栄えた高宮宿、北園街道との分岐点鳥居本宿、中山道の宿場で最も規模の小さかった山あいの番場宿、醒井宿、そして伊吹もぐさが名産でもあった柏原宿と、10の主要探訪地をめぐるルートである。



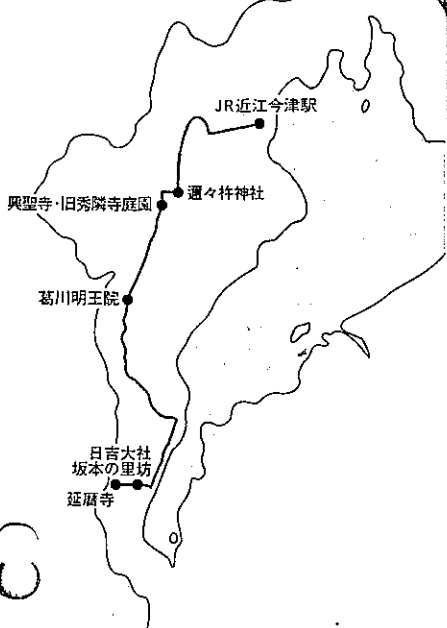
草津宿本陣→守山宿→鏡宿→武佐宿→愛知川宿→高宮宿→鳥居本宿→番場宿→醒井宿→柏原宿  
【全長約60km】

【宿駅】街道筋に旅の客を宿泊させたり、荷物の運搬のための馬などを継ぎ立てる設備のある所。  
【間道】わきみち。ぬけみち。  
【六波羅探題】朝廷の監視などを受け持った鎌倉幕府の職名。足利尊氏の攻撃を受けた北条仲時・時益の両六波羅探題が近江を通って鎌倉へ落ちのびようとしたが時益は京都東山で戦死、仲時も番場で自刃、このとき430余人が仲時とともに自害したと言われる。

## 比叡山と回峰の道

天台密教は修験の道を編み出し、その聖域は比叡から比良へと続く。比叡山延暦寺は、単に天台宗という一宗派の本山というだけでなく、鎌倉仏教の祖師たち、浄土宗の法然、浄土真宗の親鸞、法華宗の日蓮、時宗の一遍、臨済宗の栄西、曹洞宗の道元などがみな延暦寺と関わりをもって勉学に励み、新宗派をひらく。延暦寺は、まさに日本仏教の“源泉”と言って過言ではない。また、深い山間の葛川を開いたのは、天台修験の祖相応であ

った。相応は、貞観元年(859年)比良山系の険しい崖にかかる滝に聖地を見つけ7日間こもり、ここで不動明王を感得。霊木に明王像を刻み、それを安置したのが葛川明王院の起源であると伝えられている。「比叡山と回峰の道」は、この延暦寺、葛川明王院を含めて、日吉大社、坂本の里坊、興聖寺、旧秀隣寺庭園、遍々杵神社の7の主要探訪地をめぐる行者の道である。



日吉大社・坂本の里坊→延暦寺→葛川明王院→興聖寺・旧秀隣寺庭園→遍々杵神社  
【全長約80km】

## 3. 整備像と構想推進の方策

【歴史回廊構想実現のために】

近江歴史回廊構想は、次のページに示したような実現のイメージをめざして、また「新しい淡海文化の創造」の一環として、総合的施策の展開を図っていくもので、県民の皆さんや民間事業者の皆さん、国、県、市町村等が連携して、広域的かつ計画的に、地域の創意を活かしながら、推進していくことが大切です。

【重点的な取り組みの方向】

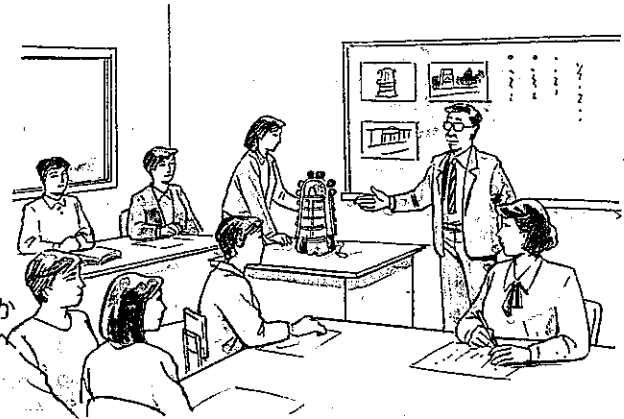
構想の中では、構想推進のための6つの方向を示しています。

- ① 歴史文化情報を整備し、気運を醸成する
- ② 連携して計画づくりを進める
- ③ モデル事業を実施する
- ④ 拠点機能を整備する
- ⑤ 移動の楽しさを追求する
- ⑥ イベントなどで交流の場を創出する

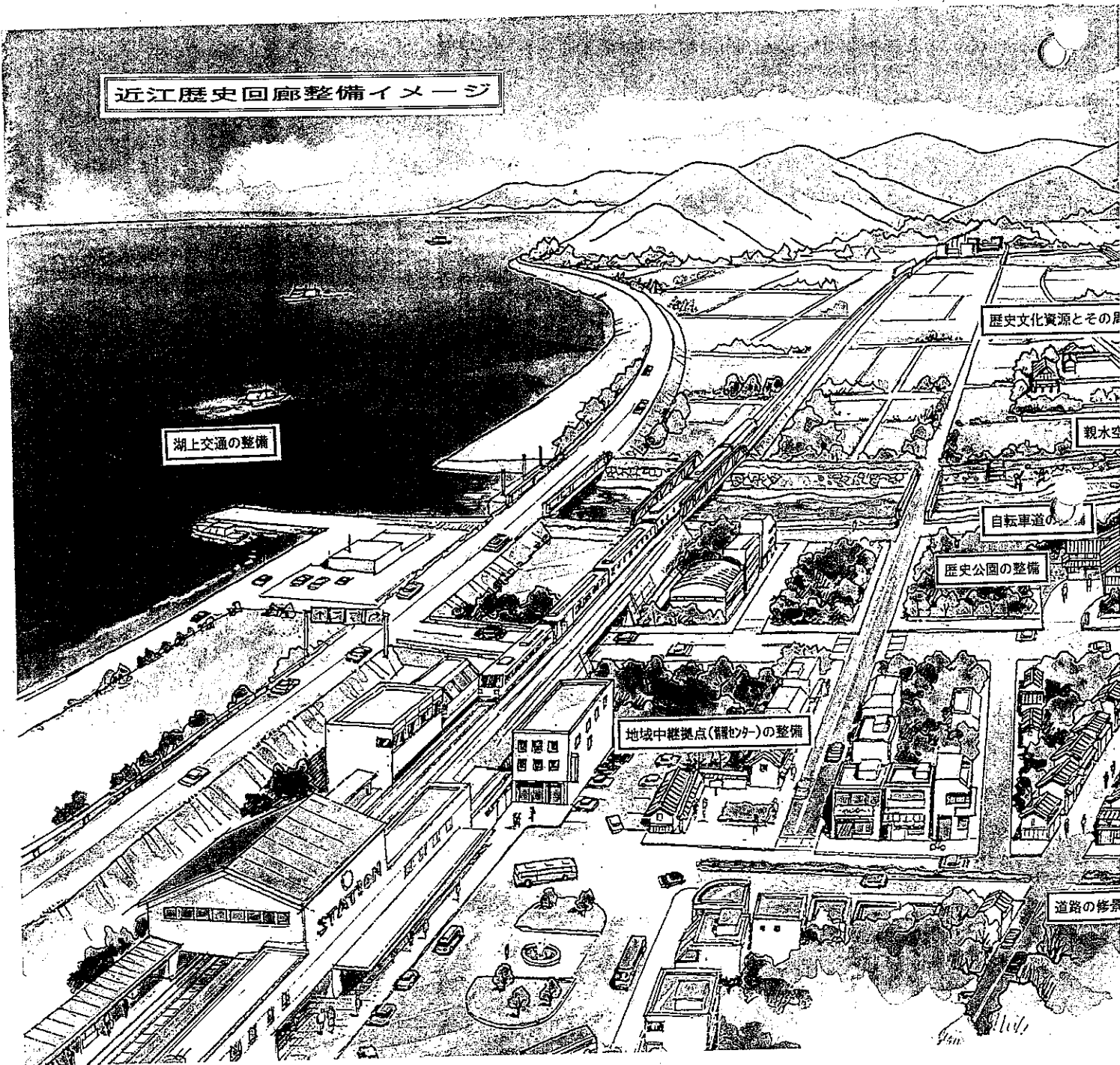
# [構想の整備像]

## ①近江の歴史を 深く、楽しく 学ぶ

県民が近江の歴史についての興味と知識を広げ、しかも楽しく学ぶことができるようになり、ひいては郷土への愛着を深めることができる。



## 近江歴史回廊整備イメージ





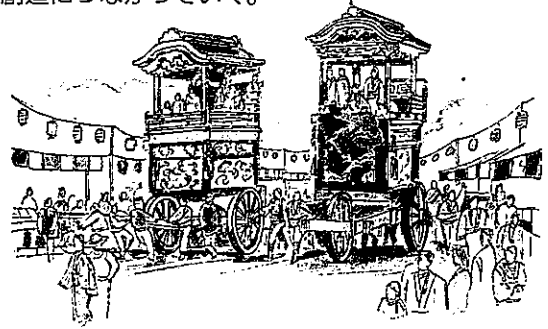
## ②近江の歴史を 現代に 追体験する

近江の歴史を頭で「知る」だけでなく、歴史を生きた先人の足跡をたどったり、歴史文化にじかに触れることにより、現代において近江の歴史を追体験し、近江の歴史の理解を深め、新たな価値を発見することができる。



## ③近江の歴史を通じて 楽しく 人と交わる

近江の歴史文化資源を活用したイベントや交流機会を創出することにより、県民が内外のさまざまな人びとと出会い、楽しく交わり、それによって近江の新しい文化創造につながっていく。



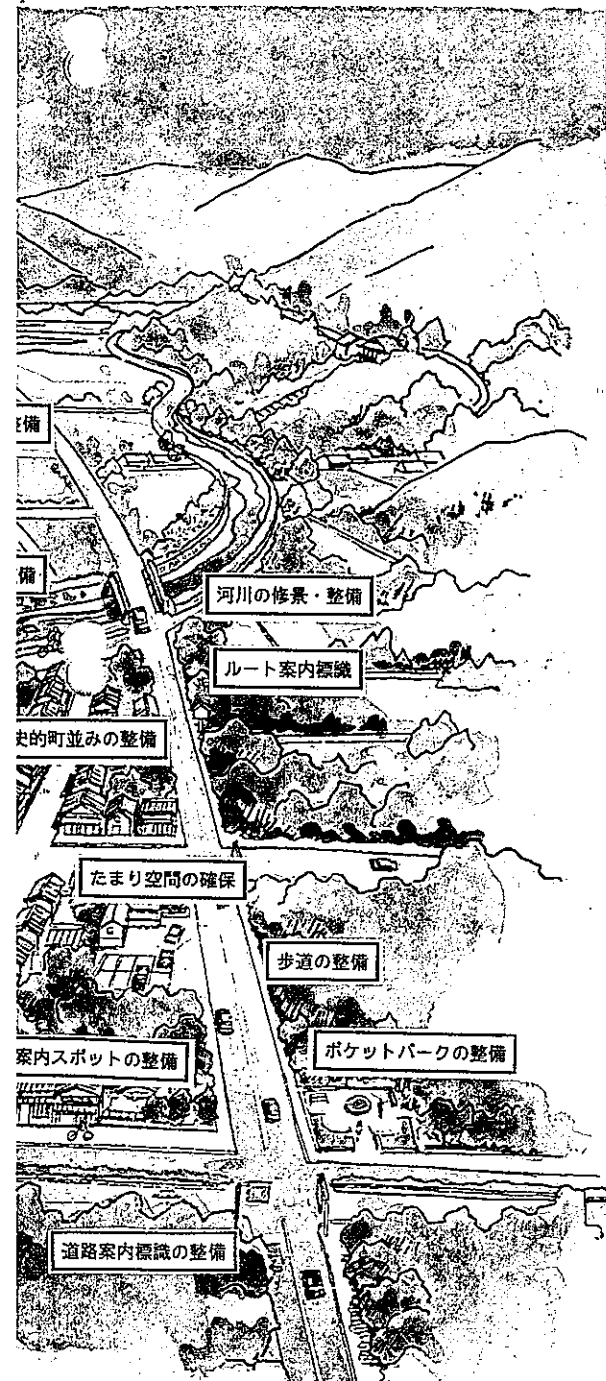
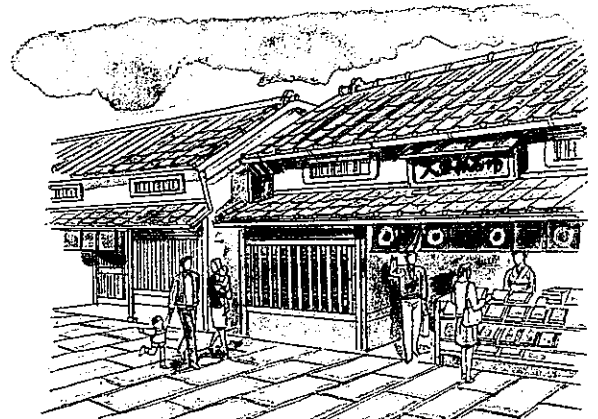
## ④近江の歴史を活かして 未来の まちをつくる

近江の歴史文化資源は、近江がどのようにつくられてきたかを表現するものであり、その意味を正しく受けとめ、それを次の時代に、より発展させていくことにより地域の将来がある。歴史文化資源を活かして、県民自らが地域の創意を発揮し、未来のまちづくりが進められていく。



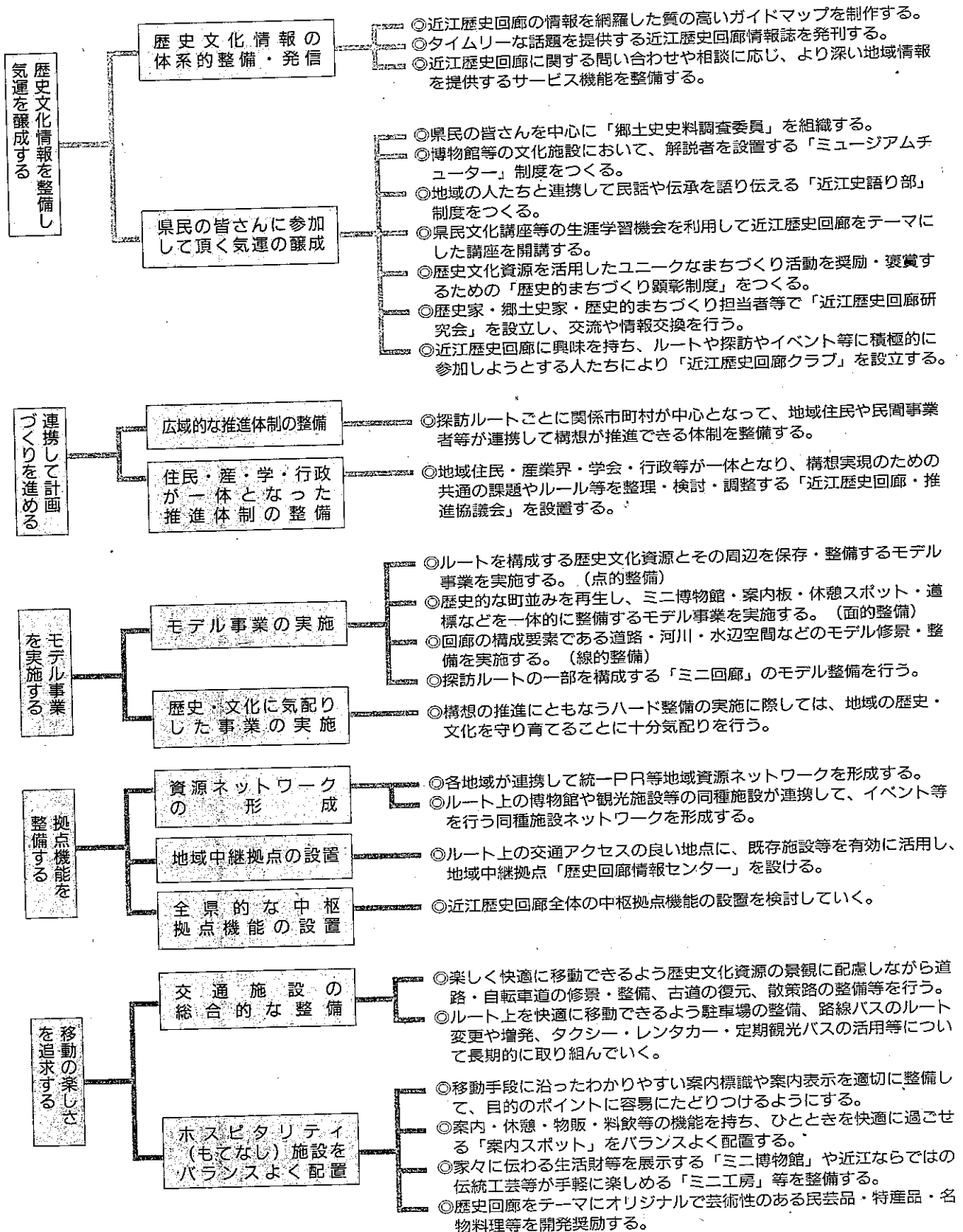
## ⑤近江の歴史の中に 快適に 暮らす

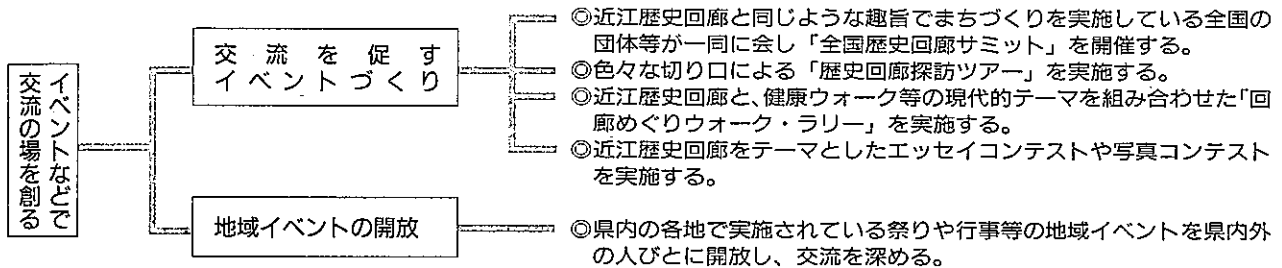
近江の「自然の中に歴史性が織り込まれている」という特質を活かして、歴史文化資源を地域の中に溶け込ませ、県民が快適に、うるおいを感じながら暮らせる居住環境が整備されていく。



[構想推進の方策]

6つの重点的な取り組みの方向に沿って、次に示すような構想推進のための取り組みを提案しました。  
(施設等の名称は仮称です)





## 4. 構想推進の体制とスケジュール

### [推進体制]

近江歴史回廊構想は、県民や民間事業者の皆さん、市町村、県、場合によっては国等の各主体が連携し、あるいは役割を分担して、推進していく体制が重要ですが、その原動力となるのは、地域の皆さんのまちづくりや地域の活性化への熱意と創意・工夫なのです。

具体的な組織としては、「近江歴史回廊・推進協議会」の設置を図ります。

### [事業の主体]

近江歴史回廊の実現のために、みんなが連携していろいろな事業を実施していきますが、事業の内容による中心的な実施の主体については、次のように考えています。

- ①近江歴史回廊全体の各種情報発信と、広域的に進める事業や大規模なイベント等については、県と「近江歴史回廊・推進協議会」が中心になって実施します。
- ②探訪ルートごとの情報発信、各地域イベントや各市町村のまちづくりに関わる事業等については、各市町村が中心になって実施します。
- ③各地域の皆さんの自発的な活動や創意工夫、活力の導入になじむ事業等については、ボランティアの方々や民間事業者・団体等が中心になって実施します。

### [推進スケジュール]

近江歴史回廊構想は、「新しい淡海文化の創造」を具体化していく総合的な取り組みで、『新しい文化』として各地域になじみ、定着するように、継続的に取り組んでいくことが重要だと考えています。そのため、最終目標はあえて定めなくて、段階的な目標を設置し、構想の実現を図っていきます。概ねの目標としては、「近江歴史回廊・推進協議会」の設置と全国へ向けた継続的な情報の発信、そして西暦2000年程度を目標に、各種の事業が展開されている状況をめざします。

### [歴史街道推進計画]

現在関西圏では、大阪・京都・兵庫・奈良・三重・和歌山・福井・滋賀の2府6県を対象に、歴史街道推進協議会による歴史街道計画が推進されています。滋賀県は、テーマルート「越前・近江戦国ルート」に選定されており、近江歴史回廊「近江戦国の道」との連携を図っていきます。



近江歴史回廊



水色いちばん—滋賀です

**滋賀県**

発行：滋賀県企画県民部地域振興課

〒520-8577 滋賀県大津市京町4丁目1-1

TEL.077-528-3334

FAX.077-528-4832

(このパンフレットは古紙配合率40%の再生紙を使用しています。)